

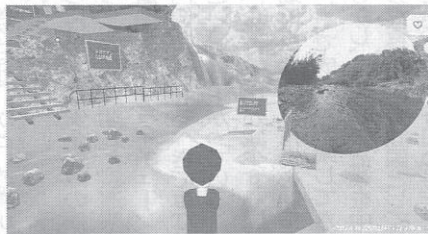
市民向けメタバース

千葉商科大学
とともに 市原市に協力し構築

NTT東日本千葉事業部

千葉県市原市（小出讓治市長）、千葉商科大学（千葉県市川市、原科幸彦学長）、NTT東日本千葉支店（千葉県千葉市、境麻千子執行役員千葉事業部長兼千葉支店長）の3者が連携し、子育て世帯や高齢者をはじめとする時間や場所、行動に制約を伴う市民の多様なニーズに応えるため、行政機関におけるメタバースの活用に関する検証を開始した。

メタバースは、自分の分身キャラクターであるアバターを利用し、同時に多数がオンラインで相互コミュニケーションや経済活動



などができるバーチャル空間。

市原市では、すべての人がデジタル技術のメリットを享受することができ、社会の実現をめざした取り組みを進めている。今回、市

民の行政機関への新たなタッチポイントとしてメタバースを構築し、窓口サービスの向上に活かそうと検討することにした。

そのため、この分野で知見のある千葉商科大学人間社会学部の鎌田光宣教授と、かねてからメタバースに関し共同で意見交換してきたNTT東日本に協力を要請し、3者で検証を実施することにした。

市民のメタバースへの関心や利用実態、活用方法などについて把握・分析するため、鎌田教授とそのゼミナールに所属する学生らが、まず市民の関心度合いを量るため、チバニアン

メタバース空間を構築した写真。なお、この空間はNTTコノキューが提供する仮想空間プラットフォーム「DOOR」を活用している。

チバニアンとは、地質時代の区分で77・4万年前から12・9万年前までの地質。地球史上最後の地磁気逆転が起きたことを示す断層が観察できる珍しいもので、イタリアの候補地を抑え2020年1月にチバニアン（千葉時代）と命名された。

今後、市原市はチバニアンをモデルにした仮想空間を活用した集客イベントなどを実施し、利用実態を把握。その上で3者が連携して、チバニアン以外の資源を活用した空間を新たに構築するなどして、市民がメタバースを利用しやすい環境整備を進めていく考え。